

日本ピグメント、住化カラー子会社化

シナジー実現へ100日プラン

大阪地区・中国の拠点再編

日本ピグメントが、子会社化した住化カラーとのシナジー（相乗）効果の早期実現に向けて動く。シナジーを生み出す具体策をまとめた「100日プラン」を8月末をめどに策定し、収益力を高める改革に乗り出す。生産部門では国内拠点のスクラップ・アンド・ビルドや中国拠点の再編・合理化がテーマに挙がる。生産、営業など各部門でシナジー効果を引き出し、完全統合を目指す2027年度に営業利益を25億円（24年度見込みは4・5億円）まで引き上げる。

取材に応じる田代社長



日本ピグメントは住化カラーを4月30日付で子会社化し、10月1日付で6月27日付で就任した田代喜一社長は化学工業持株会社体制へと移行する。持ち株会社「日本ピグメントホールディングス」が発足し、同社の傘下に日本ピグメントと

住化カラーがぶらさがる体制になる。5月に営業、開発、生産、品質保証、購買の5部門で両社のプロジェクトチームを立ち上げ現在、100日プランを策

だが、それをやり切るの定中。互いを知り、課題が私に課された使命」とや目指す姿を共有する作業。そのうえで「社員業（田代社長）を進めて全員を同じ方向に向かわせることも重要な仕事になる程度のかたち仕上げる」と語った。両社とも100年の歴史を持つ企業で、これまで競合として切磋琢磨（せつさたくま）してきた間柄。社内

のベクトルを合わせることで、次の100年を生き抜く推進力を生み出す構えた。5月に営業、開発、生産、品質保証、購買の5部門で両社のプロジェクトチームを立ち上げ現在、100日プランを策定中。互いを知り、課題が私に課された使命」とや目指す姿を共有する作業。そのうえで「社員業（田代社長）を進めて全員を同じ方向に向かわせることも重要な仕事になる程度のかたち仕上げる」と語った。両社とも100年の歴史を持つ企業で、これまで切磋琢磨（せつさたくま）してきた間柄。社内

のベクトルを合わせることで、次の100年を生き抜く推進力を生み出す構えた。5月に営業、開発、生産、品質保証、購買の5部門で両社のプロジェクトチームを立ち上げ現在、100日プランを策定中。互いを知り、課題が私に課された使命」とや目指す姿を共有する作業。そのうえで「社員業（田代社長）を進めて全員を同じ方向に向かわせることも重要な仕事になる程度のかたち仕上げる」と語った。両社とも100年の歴史を持つ企業で、これまで切磋琢磨（せつさたくま）してきた間柄。社内

マスターバッチ（着色・機能付与剤）を供給し、現地企業への販路も持つ。こうした状況を加味しながら生産拠点の再編を検討し、田代社長は「24年内には方向性を出したい」と語った。

日本ピグメントが住化カラーを子会社化した狙いは、プラチック用マスターバッチや液体分散体、パワー半導体向けダイボンディングペーストといった自社製品群の拡充。現在の主力であるプラチック用コンパウンドは、競争激化や樹脂メーカーの内製化などにより事業環境が厳しくなっている。両社の持つ製品、技術力を掛け合わせることで自社製品群の比率を高め、事業ポートフォリオの転換につなげる。マスターバッチで、日本ピグメントは自動車部品などの射出成形向け、住化カラーは食品包装などに使うフィルム、繊維などの用途向けを得意としている。田代社長は、パズルのピースがはまるような補完関係が築ける」と話す。

営業部門では互いの顧客基盤を活用したクロスセルの推進や、日本ピグメントが事業を展開する東南アジアでの拡販によるマスターバッチの販路拡大、営業開発人員の拡充によってマスターバッチなど自社製品群の新規顧客開拓を強化するといったかたちでシナジーが見込めるとみる。開発部門でも両社が培った研究

中国では、日本ピグメ